

(140828 version)

第9回福島原発事故による長期影響地域の生活回復のためのダイアログセミナー  
「福島で子どもを育む」

2014年8月30・31日（土・日）

会場：伊達中央交流館（JR伊達駅下車、徒歩） <<http://www.city.date.fukushima.jp/soshiki/29/862.html>>

**発起人**

国際放射線防護委員会（ICRP）

**協力と後援**

伊達市、放射線安全フォーラム、福島のエートス、福島県立医科大学  
フランス放射線防護・核安全研究所、ノルウェー放射線防護局、フランス原子力安全  
局  
経済協力開発機構・放射線防護公衆衛生委員会、

**同時通訳**

ディプロマット社（平野加奈江、町田公代）

**会合関連サイト**

ICRP 通信：<http://icrp-tsushin.jp/>

福島のエートス：<http://ethos-fukushima.blogspot.jp/>

**経過と目的**

国際放射線防護委員会（ICRP）は、長期汚染地域居住地域住民の防護に関する勧告において、汚染地域の住民と専門家が状況の対応に直接関与することが効果的であること、および国や地域の行政は地域住民が自ら決定しうる状況を作りだし、その手段を提供する責任があることを強調している。

この観点に基づき、ICRPは、2011年秋以来、会合を開催し、福島県の代表、専門家、地域住民の方々、およびチェルノブイル事故について経験を有するベラルーシ、ノルウェー、フランスの関係団体からの代表などが、福島原発事故の影響をうけた地域の長期の回復に対する挑戦についてその方策をさぐるためのダイアログセミナーを行った。

2011年11月の第一回のダイアログセミナーは、ステークホルダーによる影響をうけた地域とそこでの懸念についての討論の促進を行った。

2012年2月の第二回のダイアログセミナーでは、福島地域住民の状況と問題に焦点を当て、状況の理解の進展と、汚染地域の回復に向けた経験の共有することの価値を認識した。人々は、状況についての懸念を表明した。

2012年7月の第三回ダイアログセミナーは、とりわけ困難な食品汚染の問題について、異なる要求をもつ消費者、流通業者、生産者に来ていただき、食品の品質の改善と消費者の信頼獲得にむけて議論した。

2012年11月の第四回ダイアログセミナーでは、これまで3回のダイアログを通して得た理解を踏まえ、子どもの教育を取り上げた。参加者は放射線防護の備えの重要性を強調し、線量測定が個々人の放射線状況を把握する重要な道具であると認識した。事故の記憶と経験は、その困難においてのみならず、積極的な側面もあることが認識された。

2013年3月の第五回ダイアログセミナーは、「帰還」を取り上げた。帰還する、しないの決断は、単に放射線状況のみならず、長期汚染を受けた地域での生活の全ての状況を考慮してなされる。帰る・帰らない、留る・去る、の選択肢どれも困難を伴う。また決めかねている間に状況は刻々と変化する。この複雑で困難な問題について、幅広い関係者、組織、住民、教師、医師、行政、チェルノブイル経験者が一堂に会し、立場の違いを越えて、汚染地域の困難な状況に前向きに立ち向かうために共有すべき価値を探った。

2013年7月の第六回ダイアログセミナーでは、「飯舘」の人々が直面する現状と挑戦を取り上げた。2日間の熱心な議論を経て、4つの勧告がまとめられた。それらは異なる見解を表現することに敬意を払い、情報の交換を助け、自ら定めることを推進するダイアログの場を作る。村民、研究者、専門家が協力して住民のためのプロジェクトを推進するための枠組みを確立する。除染の優先順位を定め、村民の被ばく低減に有効な他のすべての可能な方策について検討する。ご高齢の方々が飯舘に帰るか帰らないかを自ら決断するための状況を可能な限り速やかに作り上げる。

2013年11月の第七回ダイアログセミナーは、いわきと浜通りの人々が専門家と共にこなった自助活動に焦点を当てた。本ダイアログは、これまでと違って、人々やコミュニティが、専門家の指導のもとにどのようにして身近の環境を理解しその状況をコントロールする活動に取り組んだかについての一連の証言が発表された最初のものであった。発表や討論を通じて、これまでのダイアログの勧告にある個人線量の測定、自助による防護、経験の交換、人々やコミュニティの必要に応じた専門知識の役割、などを実際の中で役立てることができ、しかもそれが住み慣れた地域でまともな生活を送るため、人々を支援する上で効果的であることが明らかになった。

2014年5月の第八回ダイアログセミナーは、地震、津波、原発事故の3重の災厄に見舞われた南相馬市に焦点を当てた。南相馬市は、警戒区域、屋内退避区域、指定のない区域に三分され、かつ指定の無い区域にも特定避難勧奨地点が散在する。この極めて複雑な放射線状況の中で、住民の間での情報と理解の共有は極めて困難であ

る。当初市民の9割が避難した。そして人口の5割程度までは戻った現在でも、家族内で別れて避難を継続する人々は少なくない。そのなかで放射線に対する不安と政府・専門家に対する不信は今も人々の心の奥底にある。このような中で、一部の人々は、自ら、また外部専門家等の支援を受けつつ、地域の放射線状況の理解と改善、復興のためこれからの30年を見通した活動を開始している。

### 第九回ダイアログの目的

このたび8月30・31日（土・日）の両日にわたって、第九回のダイアログセミナーを、「福島で子どもを持つ」というテーマのもとに開催いたします。福島において子どもさんを持つことには今もさまざまな問題があります。本ダイアログセミナーではこれらの問題に関連する方々に集まっていただき、さまざまな局面から対話を行っていただきます。今回のダイアログセミナーで発表や対話をやってくださる方として、地域の妊娠中のお母さん、子育ての悩みを持っておられるお母さん、保育所・幼稚園心理関係者、などを考えております。

### ダイアログセミナーでの発表と討論の進め方

#### 同時通訳

英語と日本語の同時通訳をイヤホンで聞くことができます。

#### 司会

ジャック・ロシヤール、多田順一郎、テリー・シュナイダー

#### セッションの構成

30日午前：セッション1（9時半開始）

福島における子どもの状況と支援についての発表

30日午後：セッション2（17時終了）

福島での子育てを考えるための対話

31日午前：セッション3（9時半開始）

福島における子どものこれからの発表

31日午後：セッション4（18時終了）

福島における子どものこれからの対話

## プログラム（暫定案）

第1日目 8月30日（土）

9:30-10:00 開会

全体司会：ジャック・ロシャール(フランス、CEPN)  
多田順一郎（福島、放射線安全フォーラム）

挨拶

ICRP 委員 ジャック・ロシャール

自己紹介

国内・海外参加者の自己紹介（各自1分で名前、専門、経験を話す）

10:00 – 10:40 セッション1 発表：福島における子どもの状況と支援

福島における子どもの状況（4人、40分）

後藤あや（福島医科大学）：福島における育児支援の状況（15分）  
大久保淳子（福島市保健師）：福島における育児支援の状況（フロアから、5分）  
篠原美陽子（浪江、埼玉に避難中）：浪江から避難しての子育て（20分）

10:40 – 12:00 セッション1 発表：福島における子どもの状況と支援

伊達市富成での取り組み（4人、80分）

橋本一弥（富成小学校長）：富成小学校の状況（20分）  
石川哲也（富成小学校PTA）：県外避難から帰る（20分）  
勝見 五月（前伊達市教育委員会）：荒川さん小澤さんの紹介（5分）  
荒川真奈美（元養護教諭）：教諭として母として（15分）  
小澤夏美（富成前職員）：教諭として母として（15分）

12:00 – 12:30 セッション1 発表：福島における子どもの状況と支援

コープ福島における取り組み（2人、30分）

齊藤 恵理子（福島市）：福島母親の支援についての取り組み（15分）  
佐藤澄子（コープ福島、福島市）：福島における子育て母さんへの支援(15分)

12:30 – 13:30 昼食

お弁当が用意されています。

13:30 – 15:30 セッション2 対話：福島での子育てを考える、ステップ1

司会：ジャック・ロシャール（フランス、CEPN）

報告担当：テリー・シュナイダー（フランス、CEPN）

#### ステップ1の進め方：

ステップ1で対話参加者は設問に対する回答を2回行う。

初回は自分の意見を述べる。

次回は他の方々の意見を聞いたあとで、自分の意見を述べる。

#### パネル討論参加者

早野 龍五（東京大学）

宮崎 真（福島医科大学）

後藤 あや（福島医科大学）

石井佳代子（福島医科大学）

大久保 淳子（福島市保健師）

石井 佳代子（福島医科大学）

香山 雪彦（福島学院大学）

小林 紀代（幼稚園教員）

秋津 裕（京都大学大学院、元幼稚園主任教諭）

勝見 五月（前伊達市教育委員会）

小澤 夏美（福島市、教員）

石川 哲也（富成小学校PTA）

菅野 陽子（伊達市教育委員会）

新井 芳美（伊達市）

野中俊吉（コープ福島、福島市）

齊藤 恵理子（福島市）

佐藤 澄子（福島市）

篠原 美陽子（浪江町、埼玉避難中）

早川正也（民報）

大森真（テレビユー福島）

#### 16:00 – 16:40 報告担当者によるまとめと総合討論

司会：ジャック・ロシャール

報告担当：テリー・シュナイダー

16:40 移動 伊達駅発17:06に乗車、17:16福島駅着、駅構内ロレーン&リーフ

17:30 – レセプション 福島駅西口のロレーン&リーフで懇親会を行います。

参加無料です。ぜひご参加ください。

場所：福島駅西口の構内にあります。

ウェブ：<http://www.gamma-third.com/06>

電話：024-531-0321

第2日 8月 31日(日)

**9:30- 開会**

全体司会：ジャック・ロシャール(フランス、CEPN)  
多田順一郎(福島、放射線安全フォーラム)

**自己紹介**

新規参加者の自己紹介(各1分で名前、専門、経験)

**9:50-10:50 セッション3 発表：福島の子どもたちのこれから**

福島の子どもの健康と母親との対話(3人、60分)

菊池 信太郎(郡山菊池医院、小児科)：子どもの健康  
市川陽子(福島いちかわクリニック、小児科)：福島で暮らすということ  
早野 龍五(東京大学)：ベビースキャンの計測とその意義

**10:50-11:40 セッション3 発表：福島の子どもたちのこれから**

母親の支援(4人、50分)

香山 雪彦(福島学院大学)：放射線不安下で子育てする母親の精神的健康(20分)

(共著者：佐々木美恵、小林紀代、市川陽子)

野中 俊吉(コープ福島理事長、福島市)：コープ福島における母親支援(15分)  
新田 祥子(コープ福島理事、郡山市)：母親の支援についての取り組み(15分)  
我妻 順子(コープ福島)：フロアからの発言

**11:40-12:40 昼食**

お弁当が用意されています。

**12:40-14:20 セッション3 発表：福島の子どもたちのこれから**

子どもたちへの教育(5人100分)

勝見 五月(前伊達市教育委員会)：小学校の子どもにどう教えるか(20分)  
菅野 陽子(伊達市教育委員会)：子ども達の年齢別現状と今後の保育の課題(20分)

八島 千佳子(掛田幼稚園・月舘幼稚園統括園長)：伊達市の子ども達・保護者の現状とこれから(20分)

大槻 真由美(掛田幼稚園PTA)：今伊達市で子育てをすること(20分)

秋津 裕(京都大学大学院、元幼稚園主任教諭)：幼児・初等教育での放射線学習の  
実践とねらい(20分)

## 14:30 - 16:30 セッション4 対話：福島での子育てを考える、ステップ2

司会：ジャック・ロシャール（フランス、CEPN）

報告担当：テリー・シュナイダー（フランス、CEPN）

### ステップ2の進め方：

ステップ1で対話参加者は設問に対する回答を2回行う。

初回は自分の意見を述べる。

今回は他の方々の意見を聞いたあとで、自分の意見を述べる。

### パネル討論参加者

菊池 信太郎（郡山菊池病院、小児科）

早野 龍五（東京大学）

宮崎 真（福島医科大学）

香山 雪彦（福島学院大学）

小林 紀代（幼稚園教員）

市川陽子（福島いちかわクリニック、小児科）

秋津 裕（京都大学大学院、元幼稚園主任教諭）

勝見 五月（前伊達市教育委員会）

菅野 陽子（伊達市教育委員会）

八島 千佳子（掛田幼稚園・月館幼稚園統括園長）

大槻 真由美（掛田幼稚園PTA）

石川 哲也（富成小学校PTA）

野中俊吉（コープ福島、福島市）

新田祥子（コープ福島、郡山）

齊藤 恵理子（コープ福島、福島市）

大森真（テレビュー福島）

菊池克彦（福島民友）

### 16:30 - 16:45 休憩

### 16:45 - 17:15 報告担当者によるまとめ

報告担当：テリー・シュナイダー

### 17:15: 閉会

全体のまとめ（10分）

テッド・ラゾ（フランス、経済開発機構）

閉会の挨拶

ジャック・ロシヤール